

婚活は大ブームだが

日本を衰弱させる「未婚社会」到来の不安

結婚ビジネスはブームに乗って成長するが男女間の常識を変える必要も

結婚できるのは利用者の15%

「婚活」(結婚のための活動)が大ブームだが、どうやら成果は芳しくないらしい。

6月3日に厚生労働省が公表した人口動態統計によると、08年の合計特殊出生率(1人の女性が一生に産む子どもの数に相当)は1.37。依然として少子高齢化が進行中であることが判明した。この深層にあるのは、未婚の男女が増加し続けている現象だ。結婚しない男女が増加する未婚社会の背景には、なにがあるのか。

05年の総務省の調査では、25歳から29歳までの女性の未婚率は59%、30歳から34歳の男性でも、約47%だ。日本は「結婚してから子どもを持つ」という規範意識が強いから、未婚者の増加と出生率の低下はダイレクト

にリンクしてくる。

経済産業省で少子化対策を担当した経験がある、NPO法人日本ライフデザインカウンセラー協会理事長の原口博光氏は、こう指摘する。

「政府の少子化対策は、いまいる夫婦が子どもを産むか産まないかというところに重点を置いている。しかし、それ以前の問題である未婚を解決しないことには、政府がいくら育児休暇取得推奨や不妊治療補助などに力を入れても、少子化対策は効果が現れにくいのではないのか」

「結婚する」とか「しない」などの決断や「両性の合意」は個人の心情の領域だから、国が手を付けにくい。しかし、不況に伴う経済面や雇用の形態など、社会の状況が結婚をためらわせる側面もあることを考えると、そういつてもいられない。

「婚活」の舞台となる結婚ビジネス業界には、個人経営が多い結婚相談所や、オーネットやツヴァイなどの結婚情報サービス業者、ネットの婚活サイトなどがある。

結婚情報サービス業者の場合、10万円以上の入会金や月会費、年会費がある。お見合いパーティには3千円から6千円程度の参加費用が必要で、あれこれ含めると最低でも年間50万円程度が消える。エステやネイルなど身だしなみにお金を使う男性も増加中だが、「婚活」開始とともに150万円の貯金が吹っ飛んだ。それでも結婚できるのは、利用者の15%。いればいほう「利用者」というから、決してラクなものではない。

それでもブームに乗じて、05年度時点で50億〜60億円規模だった結婚ビジネス市場は成長し続けている。

業界最大手のオーネット広報室長の平川ゆかり氏がこう語る。

「婚活」は女性が主導権を握っている。出産リミットがあるので、アラフォー女性はとくに積極的です。しかし男性は結婚に対していまひとつ消極的な姿勢が見えます」

「婚活」している男性に多いのは、入会相談に来て、「いまは気になる



日本から結婚がなくなる?

人がいるから…」などという訳し、自発的に行動しない。また親が代理で入会相談に来るなど、他人のお膳立てにも抵抗がない。彼らは料理やゴルフ、江戸切り子体験やハイキングなど、男女が自然に会話できる合コンを用意しても女性を誘えない。

一方、女性は「自分の希望ばかり主張して、上から目線で男性を見る身の程知らずが多い」(結婚相談所のベテラン相談員)という。すぐ閉鎖されたが、知り合いの男性を牛や羊に見立てて他人に紹介する婚活支援サイト「男の子牧場」(サイバーエージメント)はその代表例だろう。

ネットで検索したお見合いパーティに3千円払って参加

したA子さん(46歳会社員の結婚相手の条件は、「価値観が同じで、対等な関係が築ける人」だという。12人の男性とプロフィールを交換したが、「運命の人」に巡りあわなかったという。

「顔はそこそこいいし、バツイチでもいい。ただ留学経験のある私と同じくらいの能力があればいいのになんでダメなのかしら」(A子さん)

「誰でもいいから結婚しろ」と…

「私中心」の女性を前に、男性は怖気づく。合コンにいそしんでいるのに彼女ができないB夫氏(31歳・会社員)は、両親から「婚活をサポートしている」と責められている。「この間は兄嫁に『誰か紹介してく

ださい」と、頭を下げさせられた。親に「誰でもいいから結婚しろ」といわれるから実家に帰りたくない。僕は経済力のある女性を探しているのに…」(B夫氏)

アラフォー女性の結婚観に詳しいライターの水次祥子氏は、今後予想される結婚形態をこう語る。

「男性が女性の経済力に頼る格下婚なら、女性は自分のペースを変えないで済む。男性も『女房、子どもを食わせなければならぬ』というプレッシャーから解放される。不況で自信をなくしている男性が増えていくから、格下婚がオススメだと思える」

世の全体が、男女関係の常識を変えないと、いくら「婚活」しても未婚社会はますます進行する。

B6変形版 定価本体〇〇〇円+税 テーミス

朝日新聞の報道を正せば明るくなる

日本人が勇氣と自信を持つ本 高山正之

読者から「よくぞ書いてくれた」と共感の声殺到 (全33項目の中から抜粋)

話題 駭然

中国や韓国を弁護する朝日新聞の「悪趣味報道」「中国人の犯罪は少ない」といい張る朝日新聞の愚

馬鹿大使と朝日記者がアジアの歴史を改竄した「住基ネット」反対を唱える朝日新聞の左翼学者担ぎ